



浜風

HAMAKAZE

発行：青森県漁業士会
青森県水産振興課内
TEL 017-734-9593
編集：「浜風」編集委員会
印刷：東北印刷工業㈱

海洋学院生と漁に出る！！

—— 海洋学院漁業体験実習生受入 ——

青森県漁業士会では平成13年度から県立海洋学院生を漁業実習生として年に2回受け入れております。今年度は日本海支部の漁業士が生徒にホームステイしてもらって漁業実習を行いました。県内各地区を代表して4人の学院生に感想を聞きました。

「漁村交流で学んだこと」



鹿内 善三（出身地 岩崎村 60歳）

私のホームステイ先は春・秋とも出身地の岩崎村でエビ籠漁業をやっている神馬漁業士さんの所でした。エビ籠での作業は、ロープを引っ張り船に揚がった籠からエビを取りだした後に餌を入れることでした。船は揺れるし籠は次々と揚がってくるので大変でしたが、海洋学院の名誉のため頑張りました。秋は網の修理を教してもらいました。基本を習った学院と違い、いざ現場での網修理は様々で、長く座ったままの作業であるため、肩こり、目の疲れ、指先の痛み等々、漁師さんが漁をするための準備作業は大変な労働をしていることを実感しました。

（この部分は上記の文章と重複するため省略）



受入漁業士（日本海支部）
山下 幸彦 小山内 実
八木沢健一 斉藤 幸一
小倉 広起 石岡 清美
生駒 司 神馬 達男

「ホームステイについて」

畑井 幸浩

（出身地 平内町 19歳）



私は鱈ヶ沢町の生駒漁業士さんの所にお世話になりました。生駒さんは我が学院の先輩で底建網漁業を行っています。春のホームステイは底建網漁業の体験をしましたが、秋はクロソイの放流作業を行い、この作業から学んだことは獲るだけではだめだということでした。また、両手を延ばしてロープの長さを測り丸める作業は、1日目のホームステイではできなかったのが今回は普通に出来て、自分の成長を感じました。一方、生駒さんが話していたことではありますが、学校で学ぶことは基本であり、現場ではその応用が問われるということでありましたが、正にそのとおりだと感じたホームステイでした。

（この部分は上記の文章と重複するため省略）



トロール船での水揚げ風景

ホームステイについて



金田一近康（出身地 風間浦村 16歳）

私は、底建網や釣り、そして定置網漁業を行っている深浦町の山下漁業士さんの所でホームステイをしました。2回とも山下さんの所でしたが、2回目は定置網の型を入れるための作業を陸上で行いました。何をすればよいかわかりませんでした。自分からいろんなことを質問し、また、ロープの擦れを防ぐ

ためロープに網を巻く作業をしました。手が痛くなったりしましたが、ここで身につけたことや覚えたことは、近い将来きっと役に立つと思い、頑張っていきたいと思います。



定置網の修理

ホームステイについて



沼山 邦将

（出身地 三沢市
19歳）

春のホームステイ先は鱈ヶ沢町でトロール漁業（船頭）を行っている八木沢漁業士さん、秋は十三湖でシジミ漁業と底建

網漁業を行っている小倉漁業士さんにお世話になりました。トロールでの体験は、船酔いで漁労作業をする事が出来なかったことですが、いろんな魚が獲れて、イカ釣り（自営）と違った経験が出来ました。秋のホームステイはシジミ漁業の体験を行いました。シジミ獲りの操業開始は、さも船のレースをやっているみたいでありました。操業が終わって水揚げする時の選別作業をすると結構割れている貝があり勿体ないと思い、なぜ割れた貝が多いのか不思議に思いました。

海洋学院ホームステイ研修における生徒を受け入れて

日本海支部会長（大戸瀬漁協） 山下 幸彦

海洋学院生ホームステイ研修においては、西海岸の主な漁法の底建網、定置網、トロール、そしてエビ簞漁を体験してもらいました。悪天候のために船上での作業が少なかったのが残念でしたが、陸上での準備作業も漁業では大切なことだと感じたことと思います。

船酔いをしたり、手に豆を作ったりと苦労もあったと思いますが、今後、ホームステイで学んだことを活かし立派な漁業者になることを期待しております。

これからの漁業後継者育成のためにも、ホームステイ研修（漁村交流現地派遣事業）は良いことだと実感しました。



開 講 式

平成14年度漁村交流 現地派遣事業について

青森県立海洋学院 教務課長 鈴木 史紀

実施地区：日本海地区

実施期間：平成14年4月23日～26日、9月17日～20日

平成14年度の漁村交流現地派遣事業は昨年のもつ地区に次いで2年目で、今回の受入れ先は漁業士会日本海支部でした。事業を進めるにあたって会員の方には種々気苦労が多かったものと思いますが本当にありがとうございました。学院生15名が2回のホームステイで得るものがあった様で、ここに学院生が感じたことを一部整理しましたので「浜風」の紙面を借りまして報告させていただきます。漁業士の方からみればまだまだという感じがすると思いますが、漁業後継者として育っていく学院生にこれからもご指導の程よろしくお願いたします。

漁業士会は率先して救命胴衣の着用を

三八支部会長（百石町漁協） 木村 慶造

昨年、12月17日に開催されました三八漁業士会で、漁業士の存在意義や活動が話題に上り、救命胴衣着用の話も出ました。

家で待っている家族のことや、遭難した場合に迷惑をかけることになる仲間や関係者の方々の苦労を思うと、救命胴衣着用は漁業者として当然の責務ですが、未だに未着用で事故に遭い命を落とす例が後を絶ちません。残念なことに、今年度当管内でも2件の事故が発生しました。

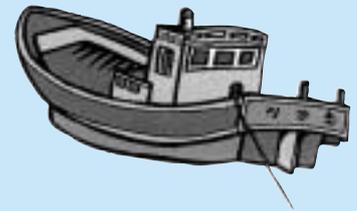
こうした背景もあって、当漁業士会では、漁業士が率先して救命胴衣を着用し、啓発普及を図っていくことを決定しました。

私は、できれば、これを県漁業士会全体の取組みに発展させていきたいと考えていますが、みなさんいかがですか？



お知らせ

平成14年5月に船舶職員法が改正され、平成15年6月から小型漁船の救命胴衣等の着用が義務づけられました。



東青支部CS

東青漁業士会研修会開催

平内町漁協 逢坂 喜八



1月31日、浅虫温泉で1泊して東青漁業士会の研修会が開催されました。会員20名のほか、県関係者も参席し、大変有意義な研修会になりました。研修テーマは、ズバリ「漁業士の役割とは？」。漁業士が自らの役割を問うという重いテーマでしたので、活発な議論は期待できないかと思われましたが、予想に反し、予定時間をオーバーするほどの話し合いとなりました。少し紹介しますと、「漁業士だからといって特別指導しなくても、自信を持って自分の生活そして仕事を一生懸命頑張っていれば、それが指導だと思っている。そして、それが役割だと思う」、「漁業士の趣旨、目的を重視し過ぎると会員離れの恐れがある」、「今後の事業計画の中に、ボーリング大会などのレクレーションを取り入れ、会員の団結を深めることが必要だ」などの意見が出されました。皆さんの熱心な話し合いの中で、誰もが漁業士会のさらなる発展を願っていることが感じられました。

支部トピックス

日本海支部

帰ってきたハタハタ

赤石水産漁協 石岡 清美

鱒ヶ沢町の七里長浜港は、まるでお祭り騒ぎでした。底曳網の漁模様から見て、沖合にはかなりのハタハタがいて感じていましたが、12月に入り、予想を上回る規模で一気に岸に突っ込んできました。港には人また人！！岸壁そばを泳ぐ群れを、何本も接ぎ木したタモ網で懸命にすくっていました。「リンゴ箱5つ獲った」、「軽トラック2台分獲った」など景気のいい話や、近隣のホームセンターや釣具店から「タモ網が消えた」という噂も出ました。

一昨年からの復活の兆しはありました。それが2002年には245トンと前年の3.5倍の水揚げとなりました。一般の人が獲った量を併せればそれ以上になります。来遊したほとんどは2年魚と思われる形の小さいものでしたが、今回獲られなかったものが大きくなって今年末に、産卵されたものが来年末に来てくれることを期待しています。そして、微力ながら去年からふ化放流を行っている「私のハタハタ」も「ちゃんと戻って来いよ」と願っているところです。



韓国（ソウル）水産市場視察研修について

むつ支部

むつ支部会では、会員有志を募り1月26日～29日の4日間、韓国ソウルにおいて水産市場視察を行いました。参加者は17名で、ソウル市最大の水産市場「鷺梁津（ノリャンジャン）市場」の視察を行いました。市場にはイカ、ヒラメ、カレイ、サバ、アイナメ、アンコウ、ホタテガイ、アサリ、カニ等々日本沿岸で漁獲されるものと殆ど同じ魚種が並んでいました。研修参加者は、販売者から成長年数や価格、産地について熱心に情報収集を行っていました。価格も非常に安価であり、衛生面もそれほど悪いという印象は受けませんでした。参加者はそれぞれの漁業の立場から感じ取るところが多々あったようです。参加者から、次年度以降も日本に水産物を輸出している近隣アジア諸国の水産市場研修を続けたいとの声が出ていましたので、今後意見・希望を聞きながら検討したいと思います。

むつ水産事務所 高山 治



むつ支部会、青森県「いのち育む」 食の体験学習功労団体として表彰される。

むつ支部会が、これまで積極的に取り組んできた水産教室など、「担い手育成」、「水産業の理解促進」、「魚食普及」などの取り組みに対して、2月14日に弘前で行われた『あおもり「食」と「いのち」のフォーラム2003』において、青森県「いのち育む」食の体験学習功労団体として表彰されました。



新規会員の 紹介

平成15年1月9日に県民福祉プラザで行われた「第44回青森県漁村青壮年女性団体活動実績発表大会」において、新たに漁業士となった11名と、青年漁業士から指導漁業士へ移行した6名が、県より漁業士認定証が授与されました。

青年漁業士



横浜町漁協
中山 恒久

最高の生活環境に恵まれ、私は漁業を営んでいます。今回、青年漁業士の認定を頂き、これからの漁業経営にますます力を入れ頑張りたいと思います。



蓬田村漁協
渡部 鉄也

私は、今回4日間の青年漁業士講座を受講したことにより、たくさんの知識を得て、自分の職業である漁業についての視野が広がりました。まだ漁業経験が浅い私ですが、早い内にこのような機会を持つことができ良かったと思います。今後も漁業士活動を通じて、色々なことを勉強していきたいと思っています。



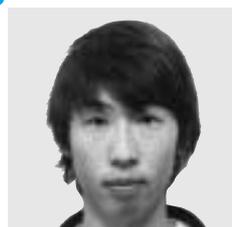
横浜町漁協
杉山 巨

今回の青年漁業士の認定により、一番やりたいことは他の地区の青年、指導漁業士との意見交流です。皆さん、これからよろしくお願ひします。



蓬田村漁協
福田 秀樹

漁師として知識も経験も浅い私に漁業士は務まるでしょうか。しかし、実際はプラスになる事はあってもマイナスになる事はないと思います。今後は漁業士としての自覚を持ち、漁業の発展に貢献できるように頑張っていきたいです。



横浜町漁協
中西 友徳

この度、青年漁業士の認定を受けた中西友徳です。家族で定置網漁業を行っています。青年漁業士として、漁業の研究はもちろんのこと、環境汚染等にも目を配り、若い男性や女性にも働ける魅力ある漁業づくりを目指していきます。



蓬田村漁協
張間 大介

気がつく私の漁業経験も10年になりました。関係者の皆様のおかげで平成11年に海外研修（オーストラリア）に参加したこともあり、今では私の貴重な財産となっています。明るい兆しの見えない漁業ですが、今後、漁業士活動を通じて、少しでも漁業の振興に役立ちたいと思っています。



猿ヶ森漁協
川口 浩

この度、青年漁業士に認定された川口です。漁業士の活動を通じて交流を持ち、これからの漁業に役立てていきたいと思ひますので、どうぞよろしくお願ひします。



はちのへ漁協
尾崎 幸弘

日頃、所得向上と漁業後継者の確保のため、付加価値を付けた販売を目指し活動していますが、漁業士のネットワークを活用し、他の地域の参考となる情報を得ながら頑張っていきたいです。



脇野沢村漁協
松浦 忠男

脇野沢漁協の松浦です。先輩方の良きアドバイスをいただき、これからの仕事に役立てたいと思ひます。

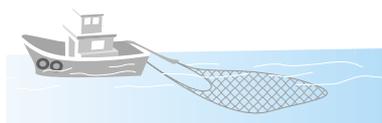


指導漁業士



はちのへ漁協
館 栄治郎

「資源管理で安定漁獲が得られる」ということを目指し、先輩漁業士の皆様からご指導を頂きながら、頑張る所存です。



新規会員の紹介



はちのへ漁協
深川 修一

漁業士の活動を通じて、先進地の資源管理型漁業と組合・地域活動を習得し、今後の沿岸漁業のあり方の礎としたい。



指導漁業士に移行しました



平内町漁協
笹原 一豊

27年間ホタテ養殖を手掛けてきましたが、半成貝大量へい死、稚貝のへい死など色々経験してきて今のような状態に落ち着きました。これからは漁業士会員として先輩方の意見を参考にして、自分なりに考え、勉強し、地元で活かしていきたいと思います。また、漁協に対しても認められるよう頑張っていきたいと思っています。



泊漁協
館 寿二郎

私は青年漁業士になってまだ3年。若輩な私ですが右も左もわからないうちに指導漁業士の認定を受け、大変ありがたく思います。これからも先輩のご指導、ご鞭撻を賜り、活動にできるだけ参加して、勉強していきたいと思っていますので、よろしくお願いします。



平内町漁協
田中三智広

今年指導漁業士に認定されました田中です。ホタテ養殖業をして16年、まだまだ勉強不足な点が多いと思いますので、多くの友を作り、大いに酒を飲み交わし、様々な地域の漁協の相方、または養殖のしかたなどを学び、今後役に立てたいと思います。先輩方のご指導の程よろしくお願い致します。



川内町漁協
今 進

この度の認定は大変光栄であるとともに、気持ちが引き締まる思いであります。今後も初心を忘れず努力いたしますので、よろしくお願いいたします。



平館村漁協
福井 裕章

今回、指導漁業士に認定され責任の重さを痛感している、平館村漁協の福井裕章です。私は現在、コウナゴ敷網、ホタテ養殖、底建網漁業を営んでいます。これからの時期は、コウナゴ敷網漁業やホタテ出荷など忙しい時期となりますが、体調を万全なものにし、がんばりたいと思います。漁業者の皆さん、春の漁に期待しましょう。



横浜町漁協
三津谷利雄

この度、指導漁業士移行に伴い、中核的立場にある者として、さらにその責任を感じているところであります。現在、長引く不況と景気低迷で厳しい経営状況ではありますが、何とか打開し乗り切っていきたいと思っております。

(お詫びと訂正)

『浜風』第9号の記事で、漁業士海外派遣研修の参加者に誤りがございました。石岡清美(赤石水産漁協)漁業士が参加となっておりましたが、正しくは根上定男(大戸瀬漁協)漁業士です。関係者の皆様に多大なご迷惑をお掛けしましたことをお詫びします。

ご意見・ご感想をお寄せください。

青森県漁業士会『浜風』編集委員会

事務局 青森県農林水産部水産振興課内

〒030-8570 青森市長島1丁目1-1 電話 017-734-9593

(編集後記)

今年度、新たに11名が漁業士として認定されました。若い漁業士も増えました。今後の活躍が期待されますね。(普及育成班 小枝)